

第 17 回公開講演会

「ビジネスメタバース –メタバースのビジネス活用と実践例–」

・講演者：菊池 惣 氏 (NEC ネットエスアイ株式会社 ビジネスデザイン統括本部 執行役員常務)

・日時： 2023 年 3 月 12 日 (日) 14 : 00~15 : 30

・会場： 明治大学 リバティータワー1021 教室 (Zoom を併用)

・講演要旨

世界的に影響を及ぼした COVID-19 により、社会生活は大きく変化した。その中で日常のコミュニケーションもオンライン会議システムなどの活用でフレキシビリティを増しているが、コンピュータの中に構築された 3 次元の仮想空間メタバース (Metaverse) でのコミュニケーションが新たな可能性を拓き始めている。本講演では、今後の企業活動に大きな影響を与えると考えられるメタバースのビジネス活用と実践例を中心に検討した。

講師の菊池氏は、1990 年、NEC ネットエスアイに入社後、局用電話交換機のソフトウェア開発に従事。2005 年から新規ソリューション開発、海外ベンダとの提携などビジネスデベロップメント業務を担当。その後、同社が 2017 年に Zoom Video Communications と国内独占販売契約を締結した際の中心人物であり、現在はビジネスメタバースなどハイブリッドワークに関連する事業推進の責任者である。

テクノロジーが日進月歩する中で、Zoom に象徴されるような「技術の潮目の変わり」を判断することは非常に難しい決断である。同社ではビジネスメタバースの利用に合わせて、2019 年からオフィス再編を実施し、社内会議もオンライン中心にして、社員の生産性を高めている。こうした自社の実践例をもとにしながら、他社へもメタバースの利用を提案している。

教育面でのメタバースの利用も少なくない。等身大の大きさで全身が見えるというメタバースの利点は、教育にも実践例があり、たとえば島根県隠岐の島のような離島に対して、遠隔授業が有効に機能している。また女子バレーチームが遠隔バレー教室に参加して効果的な点であった。

メタバースのような新しい技術は、シリコンバレーで開発されたが、この場所では人と人とのつながり基本であるインナーサークルが形成されていて、その中に入らないと新し

い技術情報に接する機会が得られない。彼らの中心はインド人技術者で、それぞれのキャリアの中に、マイクロソフトやグーグルで働いた期間が組み込まれている。数年で任期が交代する日本人技術者がそのインナーサークルに入るには難しい点があるという実体験を踏まえたエピソードも披露された。。

今後のビジネスメタバースの課題としては、本人認証などセキュリティの確保と、詐欺情報の見分け、などがある。こうした課題を解決しつつ、ビジネスメタバースはコミュニケーションの臨場感をもたらし、組織としての一体感をもたらす形で利用が拡大することが期待される。

菊池氏の講演後には会場から多くの質問が出され、活発な議論が行われた。